

新型コロナウイルス 検査事例紹介

Vol.
01

特別養護老人ホーム グランデパール様（岡山県）

施設内でのクラスター対策としてはもちろん、
自分たちで陰性確認ができて
職員が安心感を持って働けるのは大きなメリット。



理事長 長崎 貞臣 先生 (医師)

外部からウイルス持ち込みを防ぐため、 導入を決意

新型コロナの流行にともない高齢者施設でクラスターがしばしば発生していますが、私の見解では、クラスターの発生は入所者様よりも外部から出入りする職員のウイルス持ち込みが原因となる可能性が高いと考えています。そこで、万一ウイルスが持ち込まれてもクラスターに至る前に早期発見できるよう装置の導入を決定しました。入所者様と接する機会のある職員72名全員を検査対象としていますが、幸い現在まで陽性者は出ていません。



安心安全に介護を続けたい

装置導入に際して、唾液を扱うことへの抵抗感がなかったわけではありませんが、それ以上に自分たちで施設の安心安全を守っていくという強い思いがありました。職員たちにも、普段接している仲間の唾液を集めるだけなので特別怖がる必要はないことを伝え、みんな理解を示してくれました。

唾液の採取には若干のコツが必要

当施設では唾液を使って検査をおこなっていますが、この唾液採取に慣れるのには少しコツが必要でした。検体に使える“よい唾液”というのは実は意外と難しく、当初は痰の混じったものや泡のような状態の唾液など、使えないものもありました。職員全員で唾液採取の練習をおこなったことで、今ではほぼ透明なよい唾液が採取できるようになっています。

週4回、役割分担しながら2名で運用

検査は月・火・水・金の週4日。施設内の一角に装置を常設しておこなっています。装置の運用は、当施設勤務の看護師が試薬や検体のセット、私が波形の判断という分担でおこなっています。



職員が安心感を持って仕事に向き合え、 所内もよい雰囲気

導入当初、職員たちには「自分に陽性反応が出たらどうしよう」という不安もあったようですが、日々検査を重ねていくうちに、「今日も大丈夫」という毎日の安心感につながってきているようです。陰性が確認できて安心感が持てることで、職員たちも介助や支援などの業務に積極的に取り組めて、所内のはつらつとした雰囲気づくりにもつながっていますので、施設にとって非常によいことだと思います。